

色

IRO

は

WA

匂

NIO

へ

E

ど

DO



毛越寺 曲水の宴

平成十五年弥生一日発行 卷二十六



ちくそうしょうか
竹操松柯（志操堅固なこと）

人の生き方や志は姿や言葉に表れる

竹取物語の昔から日本人は竹が好きだった
美しい簡潔な姿と、早くまっすぐ成長する
勢いもある

昨年は拉致被害者の五人が帰国された

そして被害者の家族の姿や言葉が
報道されている

拉致された家族を取り戻すために

不退転で臨んできた

素晴らしい顔と言葉が

竹の姿に重なった

日本の政治家から消えてしまった
日本人の姿だ

編集主幹 阿部龍樹

特集
毛越寺 曲水の宴



3

心の絵言葉

臆病なうさぎ (ジャータカ物語より)



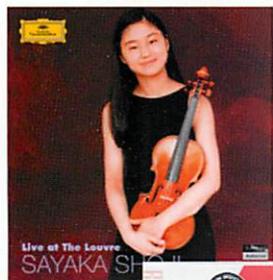
9

『弘法大師墨蹟聚集』 完結



11

情報コーナー



15

お釈迦様真理の花束



13

現代の道しるべ

17

特集

もうっじ
毛越寺

ごくすい
曲水の宴



今に残る美しい浄土庭園

平泉の中尊寺は名高く、どなたでも一度は訪ねていると思います。

しかし同じ平泉の毛越寺は意外と知られていません。しかしこの毛越寺はかつて堂塔四十、僧坊五百を数え中尊寺をしのぐ規模を誇る壮麗の寺院でした。堂塔などは度重なる火災で焼失しましたが、日本を代表する素晴らしい庭園と伽藍の遺構は完全な形で発見され、特に復元された大きな池を囲む庭園の美しさは格別です。

池は広く東西約百八十メートル南北に九十メートルあり池の周辺には玉石が敷き詰められ、また絶妙な岩組が奥行きを与えています。

毛越寺の開創は平安時代にさかのぼります。かつて慈覚大師が東北を旅していると一面に霧がかかり、白い毛が舞っていました。その毛をたどっていくと白鹿がいました。大師が近づくと白鹿は霧の中に消え、白髪の老人が現れ、この地を霊場とするように告げられました。

大師はこの地に一字を建立したのが、毛越寺の起こりとされています。



この毛越寺には池まで水をひく遣り水も美しく、この遣り水の傍らで曲水の宴が行われる



船上で催馬楽を奏でる雅楽師

毛越寺の本尊薬師如来は、金百両、駿馬五十疋などを献じて平安京都の仏師雲慶（運慶とは別人）に造らせたものです。あまりの出来映えに鳥羽法皇が「洛外不出」と言われ、京の都から出すことを禁じたほどの出来映えだったそうです。

今残る美しい浄土庭園も、かつてはため池として利用していただけで夏にはプラシタクトンの大量発生で赤く濁っていました。しかし昭和二十九年の発掘調査で、平安時代に書かれた「作庭記」に基づいた貴重かつ壮大な庭園であることが分かりました。いくら立派な排水溝を設けても赤水は解消されませんでした。が、「作庭記」に従って南西に排水溝を設けると赤水は解決しました。いにしえの人の智慧の深さがよくわかります。

遣り水は昭和五十八年の発掘調査で見つかり水源の滝つ瀬、庭石、水切り石、横石など作庭記に忠実な形で発見されました。長さは八十メートルもあり、日本最大の規模と美しさを誇っています。

曲水の宴は清流に杯を流し歌を詠み、穢れを祓う儀式として、中国の蘭亭らんていで永和九年（三五三年）三月三日に始まったとされています。

その様子をしたためた王羲之おうぎしの蘭亭之序は書の至高と言われ今に多くの写しが伝わっています。



十二単衣を纏った女人から歌題が披露される



催馬楽に合わせて奉納される若女の舞





御酒拝載 童子の運んでくる羽觴うしろうより杯をとり
御酒を飲む

日本では四八五年顕宗天皇が日本で最初の曲水の宴を催されています。また平成十年には平城宮跡から日本最古の流觴曲水りゅうしやうが発見されています。毛越寺の曲水の宴は先ず本堂で法楽が捧げられます。この本堂は藤原秀衡公八百年遠忌を記念して平成元年に平安様式で建立されました。衣冠装束を着けた歌人や雅楽師、そして十二単衣の歌題披露の女人が船で池をわたります。そして遣り水の左右の緋色の大傘が差し掛けられたそれぞれの席につきます。池をわたる間も各自が席に着く間も雅楽が奏でられています。帳の奥から十二単衣の女人が手に華を捧げて入場するといよいよ曲水の宴が始まります。女人は歌題を披露します。歌題はその折々で異なるテーマが選ばれその選ばれた歌題にそって各自が歌を詠みます。歌題が披露されると催馬楽という雅楽が奏でられ、それにあわせて若女の舞が奉納されます。そして流れに杯が流され歌人は杯が流れ着くまでに歌を詠みます。最後に被講が独特の音節で歌を披露し終宴となります。



りゅうしょう うしょう
流鶯曲水 羽鶯を流す



いっしょういちえい うしょう
一鶯一詠 羽鶯の流れる間に歌を詠み、それを短冊にしたためる

心の絵ことば二

臆病なうさぎ

絵 美香 びこう

むかしむかし森にはたくさん動物が仲良く暮らしていました。その森はとてもとても臆病な一匹のうさぎに住んでいました。いつもいつもいろいろな事を心配していました。その日も臆病なうさぎは「もしこの世界が壊れたらどうしよう。きつといつか世界が壊れて、この楽しい森もきれいな海もなくなってしまうに違いない。そうになったらどうしよう。」そんなことを心配しながら臆病なうさぎはうたたねをはじめました。その時、ドッスンと

いう大きな音がしました。臆病なうさぎははっと驚き飛び起きました。「世界が壊れはじめた音だ！」臆病なうさぎは「みんな大変だ！世界が壊れるぞ！早く逃げろ！」と大きな声で叫びながら森中を駆け回りました。虎は馬に「世界が壊れるから早く逃げろ！」と言い、馬は象にそのことを伝えました。やがて森の中すべての動物は世界が壊れると思い海の方へかけ出しました。大きな象から虎や馬、サイや猿たちから小さな

ネズミまでがかけています。

その森には**智慧と勇氣**をそなえたライオンが住んでいました。ライオンは驚きました。この勢いで大勢の動物が海にかけていけば、みんな海に落ちて死んでしまう。ライオンは猛スピードでかけだして先頭の大きな象の前に出て大きな声で一喝しました。動物たちは、はっとして止まりました。ライオンはみんなが走っているわけを聞きませんでした。「では誰にその話を聞いたんだい？」象は「馬からです。」と言い、馬は「虎からです。」と言い、虎は「うさぎからです。」と言いました。ライオンはうさぎが一番初めだとわかり、うさぎに言いました。「うさぎさん、では一緒にその大きな音がしたところを見に行こう。」動物たちはうさぎを背中に乗せたライオンに続いて歩きました。臆病なうさぎが言う「世界が壊れはじめた場所。」では何も壊れていませんでした。





臆病なうさぎは言いました。「ライオンさん、本当にドッスン！という大きな音が確かに聞こえました。」するとその時、近くの椰子の実が高い木の上から一つ落ちてきてドッスンと大きな音をたてました。みんなは目を見合わせました。臆病なうさぎが言う世界が壊れる音は椰子の実が落ちる音だったのです。みんなは大笑いをしました。智慧のあるライオンのお陰でまた森は楽しく平和な森に戻りました。

ジャータカ物語はお釈迦様の前世の物語です。お釈迦様の前世は猿の王や金の白鳥やときにはかわいいウサギなど様々な生き物でした。そして多くの善行と徳を積み重ねたのでやがてお釈迦様となりました。ジャータカ物語には日本の童話やイソップ物語のもとになるお話も多くあります。親が子供に読み聞かせるのにも最適です。



謝辞述べる阿部龍文責任監事



『弘法大師墨蹟聚集一書の曼荼羅世界』の申し込み お問い合わせは
電話03-3705-7238 ファクシミリ03-3703-4979

祝辞を述べる小林照宥真言宗各派総大本山会代表総務



刊行祝賀会

弘法大師墨蹟聚集全七秩二十二帖のすべてが刊行され、その祝賀会が昨年十二月六日に東京會館で盛大に行われました。祝賀会では真言宗各派総大本山会代表総務の小林照宥智山派総本山智積院寺務長が聚集建立（刊行）の報告を行ない、「弘法大師の残されたすべてのご著作を原寸大・オールカラーで刊行したことは過去に類例のないことです。世界的に混迷する現今、この墨蹟が一人でも多くの人の目にふれることを願っ

て止みません。私財をなげうって事業を完遂なさった阿部僧正に心から敬意を表します。」と述べられ、祝辞では仲田順和醍醐派総本山醍醐寺執行長、真言宗各山会前代表総務の楠宗親智山派前宗務総長が阿部責任幹事の功労を称讃した後、砂原秀遍教王護国寺事務長の発声で乾杯。濱野堅照豊山派前管長、広沢純孝新義真言宗前管長、橋本照念成田山新勝寺貫首、高橋隆天川崎大師平間寺貫首、大山隆玄高尾山薬王院貫首、川島宏之高野山真言宗前財務部長も壇

上で祝福されました。本年秋に、法蔵館から刊行予定の墨蹟聚集解説書の執筆陣も紹介され、編集長の竹内信夫東大教授が挨拶。最後に阿部責任幹事が謝辞を述べ祝賀会はお開きとなりました。



銀座の鳩居堂では昨年12月に一週間墨蹟の展覧会が開かれ連日大勢の人でにぎわった



鳩居堂の広いギャラリーが一杯になった『弘法大師・書の曼荼羅世界』この『弘法大師・書の曼荼羅世界』展は本年6月17日から22日まで京都文化博物館で展覧される
京都文化博物館 京都市中京区三条高倉 075-222-0888



お釈迦様真理の花束

Not to do any evil, To cultivate good, To purify
one's mind,-This is the advice of the Buddhas.
Forbearung patience is highest ascetism, Nibbana
is surpreme -say the Buddhas. For he, is not a
recluse who harms another, Nor is he an ascetic
who molets otheres.

諸 惡 莫 作
諸 善 奉 行
自 淨 其 意
是 諸 仏 教
忍 為 再 自 守
泥 恒 仏 称 上
捨 家 不 犯 戒
良 心 無 所 害



あらゆる悪をなさず

あらゆる善きことを行い

おのれの心を清めることをこそ

諸仏の御教えなり

忍辱こそ最上の行にして

至上の涅槃なりと

諸仏はのたまえり

まこと 出家にして

人をそこなうものなく

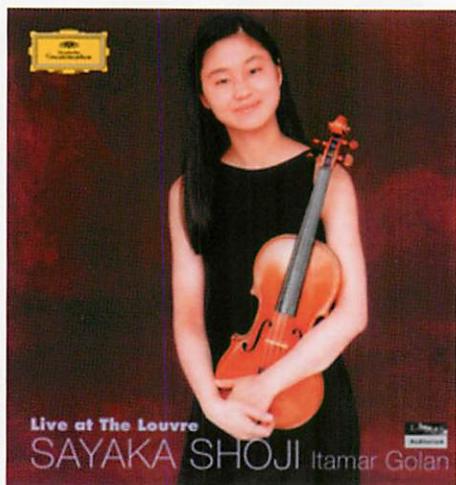
沙門にして

他を悩ますことなし

『ライヴアットザルーヴル』

庄司紗矢香

珠玉のCDを紹介します。庄司紗矢香の名声はすでに世界中で響きつつあり、今世紀最も期待され注目されるヴァイオリニストです。一九九九年のパガニーニ国際ヴァイオリンコンク



ルに史上最年少で優勝していますが、すでにその二年前にはルツェルン祝祭管弦楽団のオーストリア・ドイツツアーのソリストとして十四歳で抜擢されています。一昨年ズービン・メータのたつての希望でイスラエル・フィル

管弦楽団との競演でCDデビューを果たしています。メータは庄司紗矢香をアメリカに紹介するためにこの新春ロスアンゼルスでコンサートを開きましたが大成功の内に終わりました。昨年十二月にはサントリールでもコンサートが開かれ鳴りやまない拍手の中、三曲のアンコールを演奏し、終演のため、ホールのライトが全て点けられましたが、拍手は鳴りやまず、再びホールのライトが落とされ四曲目のアンコールでベートーヴェンのロマンス第二番が演奏されました。この演奏会はNHK教育テレビで三月二日午後十時三十分から放送される予定です。今回紹介するCDは二枚目ですが、今回はルーヴル美術館オーディトリウムにおけるライヴレコーディングという贅沢なものかつ、名ピアニスト、イタマール・ゴランとの競演で彼女のヴァイオリンの音色を堪能できる名盤です。

庄司紗矢香の公演予定。

ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団
指揮リツカルド・シャイー、
ヴァイオリン、庄司紗矢香
十月十三日(月)二時開演
サントリールホール

ロンドン交響楽団

指揮サー・コリン・デイビス
ヴァイオリン庄司紗矢香

二〇〇四年三月十二日(金)七時開演

サントリールホール

チケットの申込はカジモト・イープラスへ
〇三三五七四九一九九六〇
<http://www.kajimotomusic.com>

ビデオの紹介

『バスケットボール革命』



昨年は巨人の桑田投手が見事に復活しました。桑田投手は「復活は原監督の先発起用と古武術の修得にあった」と言っています。

近代スポーツ理論では速いボールを投げるには深くひねることと大きく力をためることを教えます。しかし桑田投手は古武術を学び、いかにひねらず、ためずにボールを投げるかを学んだと言います。私は古来の日本の武将や兵士の広範かつ迅速な移動に疑問を持っていました。馬を使える武将はともかく普通の兵士は重い防具と槍や剣などを携え長距離を移動していました。秀吉の毛利からの大返しは有名ですし、南北朝の北畠顕家は東北から京の都まで足利尊氏を追って風のように上っていました。食糧事情も今日とは比較にならない悪い時代を考えると驚異的な移動距離と時間です。しかしこのビデオを見て疑問が解けました。

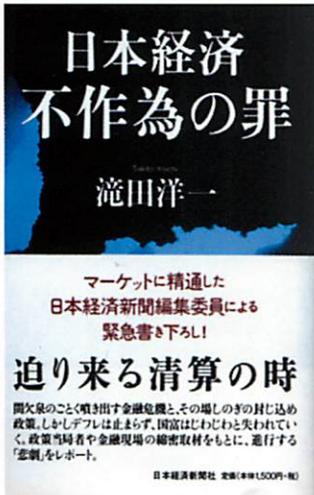
進学校の生徒達が桑田投手が学んだ古武術を応用してバスケットボールの実力を格段に上げていますが、その具体的な練習風景や古武術の応用方法などを詳細にこのビデオで紹介しています。

エネルギー消費とスタミナ切れを解消した「なんば走り」や相手に読まれにくく素早いパスが出せる肩胛骨の使い方など具体的に分かりやすくスポーツ教育や身体性の新たな地平を開く好編です。

新刊の紹介

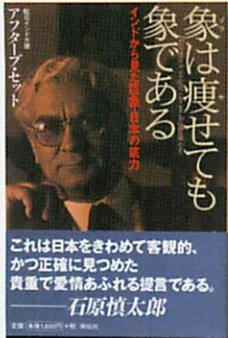
『日本経済不作為の罪』

滝田洋一著 日本経済新聞社



日産はかつてあった二兆六千億円もの有利子負債を今年度で全て解消する見通しです。韓国は深刻な経済危機から見事に脱却して経済成長を続けています。

いずれも危機を危機と認識をしはじめたその危機が克服できています。しかし日本の大きな組織は慢性的な制度疲労で、どんな問題にも何もせずに先送りをするという悪癖が蔓延してしまいました。銀行には素晴らしい事業を見極める目利きがいなくなり、未だに土地しか担保能力を見い出せず、ますます経済の地盤沈下を促しています。危機に対して何もしないと言うことが、さらに大きな危機をもたらすであろう事を本書は明らかにしています。見えにくい日本の経済の実態の真の姿も見えてきます。



洋社会の近代技術を習得した。日本の伝統は、西洋社会の近代技術がもたらす自然破壊、および日常生活における人間性の喪失に対する精神的な解毒剤として作用する機能を担っている。

日本の伝統は、自然の威厳と、人間が本来持って生まれている威厳を庇護するものだ」われわれインド人の伝統も、ほぼ同じものです。日本とインドは、よりよい世界を築くための、ごく自然なパートナーと言えるでしょう。お互いに「文明の泉」を深く掘り下げ、今日の問題に対する方策を、ともに考えてゆけばよいのです。

はるか彼方を見やる必要はありません。すべての答えは、連綿と綴られてきた歴史の中にあるのです。日本の歌人、會津八一は、この精神を見事に表現しています。彼の歌を三首ご紹介しましょう。

ほほゑみて うつつところに ありたす
くたらほとけに しくものそなき

ひそみきて たかうつかねそ さよふけて
ほとけもゆめに いらたまふころ

みほとけの うつらまなこに いにしへの
やまとくにはら かすみてあるらし

會津八一記念博物館は、私の住むインド大使公邸から歩いて五分の距離にあり、私も訪れたことがあります。それはともかく、この歌は、過去を顧みることによってインスピレーションを受け、過去からもたらされて、現在もなお保持しているものを大切にせよということを示していると思います。この歌に詠まれていることこそ、日本の伝統の神髄ではないでしょうか。

トインビーが論じ、會津八一が謳った日本の伝統は、インドの伝統とまったくと言っていいほど似ています。

自然を崇拜し、人間の威厳を尊重すること。また過去を顧みて、過去からもたらされた遺産を見つめ直すこと。そうすることによって、問題を解決することができ、救済を得ることができるのです。

人々がしばしば感じる、夢を失ったむなしさやはかなさ。それを乗り越える力を日本が携えていることに、私は確信を持っています。

日本が自らの伝統を見つめ直し、自らの力を再確認すること。そして自信を回復すること。そのためにインドがパートナーとなるのであれば、このうえない喜びです。

もう一度、あなたに語りかけましょう。

「象が痩せるとしたら、どれくらい痩せられるだろうか？」

現代の道しるべ



アメリカ人一人一人と接すると皆とてもオープンでいい人が多いと感じます。

しかし国家としてのアメリカを見るとその単細胞ぶりにあきれてしまいます。21世紀がアメリカへの同時多発テロで始まり、その報復でアフガニスタンを空爆し、さらにイラクへの攻撃を前提とした国連によるイラク査察が行われています。そして北朝鮮では核開発を明言しています。イラクは国連の査察に対しても協力的で未だに決定的な証拠が出てきていませんが、アメリカはイラク攻撃の準備を着々としています。これほど査察に協力し、大量破壊兵器も持たないと言っている国を攻撃することに正当性も正義も全くありません。

フランスのシラク大統領もドイツのシュレーダー首相も戦争には反対しています。ブッシュはフランスが反対するならイラク戦争後のイラク復興プロジェクトの利権をフランスには与えないと言って

シラクを激怒させました。アメリカの正義の底の浅さがあらわれています。

一方北朝鮮は大量破壊兵器核開発を明言しています。アメリカの論理から言えば、北朝鮮は攻撃の対象になっているはずですが、北朝鮮には外交ルートでの解決を今のところ目指しているようです。これは明らかにダブルスタンダード、欺瞞です。文化が無いことが文化になってしまったアメリカという国が、過去の歴史や文化を省みずに自国の国益の為だけに戦争に突入することは許されない行為です。

歴代アメリカ大統領が就任式で手を置き宣誓する聖書には『右の頬を打たれば左の頬を出す・・・』という有名な句もあります。仏教の經典にも恨みの炎は恨みで消すことは出来ないと言っています。報復の連鎖の拡がりには想像を超える速さで世界に拡がり人類全てに大きな危機をもたらすことは時間の問題です。

地球の温暖化で南の海洋国家は存亡の危機にあり、人口の爆発的増加で食糧難は目前に迫っています。歴史と文化が異なる国や地域が理解を深めあうことが急務です。その点ユーロの実現の速さと拡がりには素晴らしいと思います。日本もアジアの国々とアジアンアライアンスを構築して、人や物の交流を通して理解を深める時です。

右の本は学生時代、日本への留学経験がある現インド駐日大使、アフターブ・セット大使の『象はやせても象である』（祥伝社刊）です。荻原朔太郎を愛し、自らも詩集を出している芸術家でもある大使が、日本の姿を的確に描き出しています。仏教を通して日本とインドの交流は始まり、今はITやコンピューター産業でも映画でも深いつながりがあります。かつて東京裁判という勝者が敗者を一方的に裁くという悪しき裁判で、唯一日本の無罪を主張したのはインドのバル判事でした。本の中で著者は以下のように述べています。

伝統を見つめ直せば、自信は回復する。著名な歴史学者であるアーノルド・トインビーが、日本について次のような考察をしています。この文章を読むと、日本が悲観的になる理由などないと思えるのです。

「神道および仏教思想は、人間が自然と対峙するにあたっての倫理的義務を具現化したものと言える。私は、日本の人々こそが、人類をより安全でより幸せな方向へと導く能力を有すると信じている。日本という国家は、自らの宗教的伝統を失うことなく、西



西新井大師 総持寺

〒123-0841 東京都足立区西新井1-15-1 / TEL03-3890-2345

次回発行は7月1日予定

イルカの秘密

Editor ABE RYUJU Art Director and Photographer/SHU FUJIWARA

Editorial Staff/ SAMURO MIWA TOKUMARU KOJI MOTOYAMA KAZUFUMI OYAMA CHIGUSA SIMAZU RYUTOKU KAWASAKI YUKIKO

HOME PAGE DESIGN MASAOKI OKA HIROYUKI HANAWA Making Mechanic SANMITUSHA+SHOEIDO Printing KORINKAKU

EDITORIAL OFFICE MANGANJI SHUGEISHUCHIIN S.H.C

〒158 東京都世田谷区等々力3-15-1 電話03-3705-1622 ファクシミリ03-3703-4979

Shingon Horonic Irowanioedo 第一卷第二十六号 平成十五年弥生一日発行

100